

川柳マガジンファンクラブ東京句会

句評会 提出作品一覧

第一回 平成18年7月9日

自分らしく生きていくって素敵だな 山口千枝子
 臍の緒を見せてあなたの息子です 植竹団扇
 錠剤に色分けされている身体 白勢朔太郎
 税務署へ晩酌代が化けて出る 五十嵐淳隆
 ぎりぎりの嘘病人と向い合う 新澤きよ
 前例を守り通している痒み 山本トラ夫
 日本史は教えていない英語塾 松橋帆波
 声高に核廃絶を叫ぶ夏 長谷川誠一
 ひとり愛でひとり殺して独り酔う 斎藤大雄
 肩書きをまだおろせない天下り 齊藤富士男
 古い独り自慢話は子だくさん 佐藤寿志子
 古稀を行く劣化が怖い一輪車 小倉利江
 殺害をして殺意はないと言う鬼面 増田幸一
 デパートの囲りの道路爽かに 棚瀬くんじ
 到来の傘が始発の雨を除け 金子君絵
 お茶の出る店で食べようお母さん 山本桂馬
 日銀の総裁までが目にくらむ 小林寿子
 延命は拒否し長寿は願ってる 井手ゆう子
 後継者選び鬨汁めいて来る 伊藤弘子
 汗かいて汗を流してのど渴く 五十川三竿
 人の世の逆さに見えるイナバウア 木内紫幽

第二回 平成18年8月13日

タツチの差でいつも負けてる家系の譜 伊藤三十六
 井戸堀が消えて下流が溢れてる 中島宏孝
 ライバルにしては相手が強すぎる 山口千枝子
 おばさんが走るのでバス走れない 植竹団扇
 結び目を解いた姑の割烹着 白勢朔太郎
 ハズされるらしい梯子は昇らない 五十嵐淳隆
 何気ない一言付いて離れない 村田倫也
 帯揚げで勝負の姿ととのえる 葛西 清
 甲子園ハトとび立ちて原爆忌 坂倉敏夫
 感謝する心しあわせ向いてくる 新澤きよ
 健康は買うものらしい高齢化 松橋帆波
 さばをよみエトを問われてトシがばれ 八木柳雀
 挑戦のこころ先入観は消す 太田紀伊子
 屈折をする子の笑窪誉めてやる 小倉利江
 赤ん坊増えてますよと軒燕 棚瀬くんじ
 靖国のメモが惑わす総裁選 小林寿子
 帯紐を解くと優しい母の顔 江崎紫峰
 死亡届けあつけないほど薄い紙 井手ゆう子
 原巨人見ざる聞かざるあいた口 伊藤弘子
 イオン水勝って来るぞと喉を行く 五十川三竿

携帯を片手に片手間な会話
レモネードあの日弾けていた僕ら
山口兄六
加藤 鯉

第三回 平成18年9月10日

越えて来た青い山脈口遊ぶ 徳永博重
 時々はええじゃないかと叫びたい 村田倫也
 よく笑いキノコ凶鑑をそっと見る 八木柳雀
 世論滔々私も右にずれていく 松橋帆波
 一人立ちを祝ってれと稲の花 葛西 清
 妄想愛人ならば五人ほどいる 植竹団扇
 母ですか妻ですけれど女です 山口千枝子
 S Lで紅葉狩りとは洒落てます 白勢朔太郎
 噂などどこ吹く風の玉の輿 伊藤三十六
 出払って留守居が母の夏休み 石田きみ
 溜飲が下がる話で盛り上がる 高田宣子
 父さんは娘の膝枕耳掃除 佐藤敏子
 飽食の街に増えてく青テント 小倉利江
 法の綱巨悪はすりすり抜ける 大戸和興
 鬼の子も生んで神にもある戦さ 斎藤大雄
 あしたまた遊ぶとのこすシャボン玉 棚瀬くんじ
 米研がず野菜切らずの新世帯 伊藤弘子
 ぢりばのゲートボールは口げんか 小林寿子
 Gパンがバリバリ乾く敗戦忌 井出ゆう子
 冗談のように本音を吐き丸い 太田紀伊子
 夏休み終って今は秋休み 五十川三竿
 生きている痛みいとしき命の灯 尾藤一泉

第四回 平成18年10月8日

冷房の夏を楽しむ熱帯魚 徳永博重
 戦争が始まりそうな青い空 伊藤三十六
 両面のテープを剥がす七年目 白勢朔太郎
 団塊の花道飾るラストラン 五十嵐淳隆
 ひとりごと返事をするのも私 山口千枝子
 直訴する相手どこにも見つからぬ 村田倫也
 ひらがなで書くと怪しいいんこう科 植竹団扇
 兄さんの心が折れて冬になる 松橋帆波
 美しく老いる心に化粧する 石田きみ
 チルドレン秋の扇とかたされる 棚瀬くんじ
 プライドを虫喰いにするもの忘れ 小倉利江
 距離おいて見れば尊敬できる人 大戸和興
 ワンマンが詫びて優しく妻介護 佐藤寿志子
 口達者だけど体は動かない 高田宣子
 力まかせベッドメイクを引き剥がす 井手ゆう子
 公約に大風呂敷が小さすぎ 伊藤弘子
 神の口から人の口臭 尾藤一泉
 かと言って猫にもなれぬ待ちぼうけ 南野耕平
 それぞれの高さで人はものを見る 杉山太郎

第五回 平成18年11月12日

改憲に向けて呉越の舟が出る 五十嵐淳隆
濡らすまい夫婦絆の観世絃 徳永博重
鏡拭くゆうべの罪を消すように 山口千枝子
生足と面の皮とは陸続き 八木柳雀
もう少し静かに観よう女子バレ― 植竹団扇
反米で反日そして花が好き 松橋帆波
鈍行の旅も帰りは急ぎたい 村田倫也
保護色を飛び出していくからす瓜 杉山太郎
これだけの人だったのか虚脱感 石田きみ
脳血栓耳にすみつく蟬の声 佐藤寿志子
寂聴の法話サービス天こ盛り 井手ゆう子
馬は肥え霜はきびしく波はいろ 棚瀬くんじ

第六回 平成18年12月10日

落丁もあるシナリオの船を漕ぎ 小倉利江
学校を励ます月が真丸い 杉山太郎
饒舌の合間の本音見逃さぬ 井手ゆう子
太つても痩せても同じ靴を履き 松橋帆波
心で万歳叫ぶ気のへたり 村田倫也
3×3両手エプロンで引率 植竹団扇
本能は人を醜い顔にする 伊藤三十六
頑張れに付け足してやるモノが無い 五十嵐淳隆
降りある命あなたも私も 山口千枝子
母親がクルリ女の顔になる 石崎流子
無伴奏の温もりを聴くわらべ唄 白勢朔太郎
渋い茶が出て頃合いを知らされる 山本トラ夫
杖頼る身を杖として老夫婦 徳永博重
鬼嫁になりそう声も背もデカイ 渡辺まもる
蔓延官製談合常態化 高田宣子
沈黙の臓器と地球狂い出す 大戸和興
空きベンチ坐れば鳩が寄って来る 棚瀬くんじ
過労死もニートもいます感謝の日 佐藤寿志子
バカヤロー殺す別れる虹が出た 森 青蛙
沈黙が意味をもたない真昼間 南野耕平
出る杭は打たれ凹めば凶に乗られ 尾藤一泉